

中国東北3省における銀行システムの現状と課題

専修大学経済学部准教授 遠山浩

経済発展が著しい中国であるが、銀行をはじめとする金融制度は整備途上にあり、地域によりその進捗は異なる。中国の諸問題を検討する際に、同じ国の中に全く異なる国が存在するがごとく、地域が異なると制度が異なることが少なくないが、東北3省の銀行システムについても、先行して発展した沿海地域とは異なる制度が成立し、独特の課題を抱えている。本稿では、全国との比較検証を行ったうえで、東北3省内の商業銀行をみていくことで、今日の東北3省における銀行システムの課題を検討していく。

中国金融システムの概要

計画経済体制に長らくあった中国において、銀行システムが整備されたのは1990年代後半である。1990年代に入り国家專業銀行から政策金融機能を分離させるとともに、政策金融機関として国家開發銀行、中国輸出入銀行、中国農業發展銀行が1994年に設立され、1995年に中央銀行制度が確立された。あわせて商業銀行法が施行され、1980年代後半以降に設立された株式制商業銀行や外資銀行と同じ土俵

で、国家專業銀行も国有商業銀行として活動することになった。しかし、計画経済体制の影響は根強く、人民元貸出における国有商業銀行4行のシェアは1990年の86%からは低下したとはいえ1995年でも78%と高く、市場経済下の銀行システムからは程遠い状況であった¹。

2008年末における中国の金融機関の状況をまとめたのが表1である²。総資産残高の比率は、株式制商業銀行や都市商業銀行といった新興商業銀行のシェアが向上するのに伴い、国有商業銀行のシェアは低下している。1990年代後半以降に銀行制度を拡充してきた結果であるが、その進捗は都市部と農村部とは異なっている。中国経済の発展を支えた沿海都市部の金融改革が先行したのに対して農村部での取り組みは遅れている。

都市部では、株式制商業銀行が主要都市において支店を拡大していくとともに、一つの都市の中に複数存在していた都市信用組合（中国名：城市信用合作社）を都市商業銀行（中国名：城市商業銀行）へと統合・転換していく動きが1996年に深圳から始まる。都市商業銀行は都市部の中小

表1 中国の金融機関概要（2008年）

金融機関 行・社数			総資産残高			
地域	区分	数	地域	区分	残高（億元）	
全国	政策性銀行	3	全国	政策性銀行	56,454	9%
	大型商業銀行	5		国有商業銀行	318,358	51%
	株式制商業銀行	12		株式制商業銀行	88,092	14%
都市	都市商業銀行	136	都市	都市商業銀行	41,320	7%
	都市信用組合	22		都市信用組合	804	0%
農村	農村信用組合	4,965	農村	農村信用組合	52,113	8%
	農村商業銀行	22		農村商業銀行	9,291	1%
	農村合作銀行	163		農村合作銀行	10,033	2%
	村鎮銀行	91	その他	郵政貯蓄銀行	22,163	4%
	小額貸出会社	6		非銀行金融機関	11,802	2%
農村資金互助社	10	外資銀行	13,448	2%		
その他	郵政貯蓄銀行	1	合計		623,876	100%
	非銀行金融機関	273				
	外資銀行	32				

資料：『中国金融年鑑2009』

資料：『中国金融年鑑2009』

¹ 『中国金融統計1949-2005』を参照した。当時は、中国銀行、建設銀行、工商銀行、農業銀行の4行を国有商業銀行としていた。なお、中国金融機関の発展経緯については、遠山浩「チチハルの金融問題」（関満博編『中国東北「辺境」の重工業と食糧基地』新評論、2010年）を参照されたい。

² 2003～2005年の中国金融機関の状況については、遠山浩「民営中小企業と金融問題」（関満博編『現代中国の民営中小企業』新評論、2006年）、遠山浩「広東省の金融システムと花都の発展戦略」（関満博編『中国自動車タウンの形成』新評論、2006年）を参照されたい。

表2 中国全国の預金残高・貸出残高・預貸率の推移

	1985	1990	1995	1998	2000	2003	2005	2008
GDP (億元)	9,016	18,668	60,794	84,402	99,215	135,823	183,217	300,670
預金残高(億元)	4,560	13,943	38,726	95,698	123,804	208,056	287,170	466,203
預金/GDP	51%	75%	64%	113%	125%	153%	157%	155%
貸出残高(億元)	6,198	17,511	39,393	86,524	99,371	158,996	194,690	303,395
貸出/GDP	69%	94%	65%	103%	100%	117%	106%	101%
預貸率	136%	126%	102%	90%	80%	76%	68%	65%

注：預金残高、貸出残高は人民元建のみ

資料：『中国金融年鑑』2009年版、『中国金融統計（1949-2005年）』、『中国統計年鑑』各年版

企業金融を担うとされ、2008年12月末で136行が存在しているが、その業容や展開は様々である。例えば北京銀行や上海銀行のように業績が良好な都市商業銀行は、本拠とする都市以外にも支店を開設し業容を拡大する一方で、単独での業容拡大が困難な都市商業銀行は合併により規模を確保することで新たな展開を目指している³。

都市部における銀行システムは整備されてきたが、社会主義市場経済体制下で勃興してきた中小企業は銀行借入が難しい状態が続いている。これに対し2009年2月に、金融監督官庁である銀監会が主要商業銀行に中小企業金融専門部門の設立を求めたのを受けて、国有商業銀行や株式制商業銀行は中小企業金融への取り組みを推進している。また各都市の政府主導により、銀行貸出と信用保証会社からの債務保証とをセットしたスキームが中小企業に提供され、円滑な中小企業金融を支援する動きもある。

農村部に目を移すと、農村信用組合（中国名：農村信用合作社）の農村商業銀行（中国名：農村商業銀行）への統合・転換は遅れ、2004年6月末で都市商業銀行112行に対して農村商業銀行は江蘇省の3行にすぎない。これは農村信用組合の不良債権処理が本格化したのが2003年で、商業銀行化への改革は進んでいなかったためである。農村部の金融改革は都市部と比較して5年以上遅れて開始したが、近年になり取り組みが本格化している。

2009年7月に、銀監会は新たな農村金融システムの構築を進めていくことを決定した。具体的には、この数年間で設立されてきた村鎮銀行を1,027行、小額貸出会社（ノンバンク）を106社、そして農村資金互助社を161社、2011年までに全国で設立する計画が示された。これら新型農村金融機関は地元限定した融資のみが認められており、都市部での銀行改革が広域化の方向で進んでいる状況とは異なる

展開が目指されている。

預金と貸出にみる中国銀行システムの発展

金融市場が正常に機能している経済体制の下では、余剰資金が銀行預金として吸収され根源的預金となり、銀行はそれを原資に信用創造機能を発揮し、新たな預金が銀行部門にまた吸収され貸出の原資となる。したがって、金融市場が機能しているかを確認するためには、銀行が預金を吸収できているか、調達した預金を銀行がどの程度貸出に振り向けているかがポイントになる。そこで、前者についてはGDPに対する預金残高の比率を、後者については預金残高を貸出残高で除した預貸率を用いて確認する⁴。

全国のGDPに対する預金残高の比率をみると1995年でも64%にすぎない。この比率がどの程度あれば銀行の信用創造機能が発揮されているかという基準はないが、GDPの70%を下回るのはいかにも低く、計画経済体制下の銀行システムでは余剰資金を預金として銀行に還流するシステムは定着していなかったことがわかる。その後、上述の銀行システムの拡充が始まる1996年になると預金残高はGDPの100%を超え、2003年以降には150%台で推移する。今日では銀行の預金吸収機能は中国全土で定着してきている。

1995年までの預貸率は100%以上とオーババンキングの状態を示し、吸収した預金で貸出を行う金融仲介機能を銀行は果たせていなかった。しかし、1996年以降の数年間を90%前後で推移した後は低下基調となり、2000年には80%、そして2005年以降は70%を切っている。これは国有企業・農村改革が進展した時期にあたり、不良債権処理の進展にあわせて新規の貸出余力が出てきたもので預貸率の低下は評価できるが、その後もなお預貸率が低下し続けて

³ 東北3省の事例以外では、例えば広西チワン自治区の広西北部湾銀行がある。

⁴ 預金、貸出データを用いた中国金融の推移については、遠山前掲書（注1）を参照されたい。

いるのは新規貸出創出力が弱いことにつながり改善が必要である。それゆえ、先にみた銀監会をはじめ中小企業金融への注目が高まってきている。

発展途上にある東北3省の銀行システム

計画経済体制下の中国の金融システムは中央集権的に捉えられがちなモノバンクシステムであったが、実際には中央政府の支配力が必ずしも及ばない「属地的性格」を帯びた地方分権的な特徴を持ち、絶えず地方政府の介入を受けてきた。1990年代以降、金融市場改革が行われてきたものの、金融市場は未だにほぼ各省毎に分断されている。地域で活動している企業の金融活動は、地元の金融市場の環境に大きく依存している。

東北3省および主要な先進地域について、2008年の預金および貸出に関するデータをまとめたのが表3である。まず主要先進地域をみると、域内総生産（GRP）に対する預金残高比率は全国平均を大きく上回り、貸出残高比率についても同様の傾向がみられる。預貸率は52%と低い北京から84%と高い浙江まで幅広いが、外資の受け入れが多い地域は、貸出残高が相応に積み上がっても海外からの投資資金が預金として多く吸収されるため預貸率は低くなってしまふ。このように考えると、先進地域においては預金吸収で貸出を実行する信用創造が機能する一方で、余剰資金を域外に供給していると言える。

次に東北3省をみると、3省の中では遼寧省が比較的高いとはいえ、GRPに対する預金残高比率、貸出残高比率ともに全国平均を下回っており、銀行による信用創造が十分に機能しているとはいえない。預貸率は、吉林省が全国平

均を上回っているが、同省の不良債権比率が高いことより、活きた貸出の実行が高い預貸率を生んでいるとは考えにくい。黒龍江省にいたっては貸出残高がGRPの5割強にとどまり預貸率も低い。これらを考え合わせると、遼寧省の実績を押し上げている一部の地域を除くと、東北3省は金融改革が全国で遅れている地域、すなわち銀行システムは整備途上ととらえることができる。

政策性銀行への依存と都市商業銀行の台頭

2003年の全国に対する東北3省の貸出シェアは10%で、GRPシェアの10%と同一水準であったが、2008年をみると貸出シェアは8%とGRPシェア11%を下回っている。そこでこの要因を分析すべく、東北3省の貸出を担っている金融機関の推移をみるために、農村部での金融改革が本格化する前の2003年と2008年のデータを比較したのが表4である。なお、東北3省での貸出残高を公表している銀行が少なく、表4からは推定を含めて分析せざるをえないため、表1の全国での金融機関の属性別にみた総資産額シェアと、表5の株式制商業銀行の東北3省の支店一覧をあわせて参考にしていきたい。

2002年の東北3省における国有商業銀行4行のシェアは52%で、全国でのシェア59%を下回るものの、貸出の過半を国有商業銀行が占める構造になっている。中でも工商銀行と農業銀行のシェアが33%と高い。両行のシェアが高い傾向は全国でもみられるが、国有製造業と農業へ依存して発展してきた東北3省の情勢を反映したものと見える。

国有商業銀行のシェアが全国シェアより低い一方で、農業発展銀行のシェアは12%と全国シェア4%に比して高

表3 中国主要都市および東北3省 預金・貸出関連データ比較（2008年）

単位：億元

省・市	預金		預金／GRP	貸出		貸出／GRP	預貸率	不良債権比率	GRP	
	金額	比率		金額	比率				金額	比率
遼寧	18,778	4%	139%	12,348	4%	92%	66%	3.6%	13,462	4%
吉林	6,433	1%	100%	4,891	2%	76%	76%	5.1%	6,424	2%
黒龍江	9,078	2%	109%	4,594	2%	55%	51%	4.9%	8,310	3%
北京	43,981	9%	419%	23,011	8%	219%	52%	1.6%	10,488	3%
天津	9,954	2%	157%	7,689	3%	121%	77%	2.3%	6,354	2%
上海	33,055	7%	241%	20,295	7%	148%	61%	1.6%	13,698	5%
江蘇	38,063	8%	126%	27,081	9%	89%	71%	1.6%	30,313	10%
浙江	35,481	8%	165%	29,659	10%	138%	84%	1.2%	21,487	7%
広東	55,087	12%	706%	32,507	11%	416%	59%	2.4%	7,807	3%
合計	466,203	100%	155%	303,395	100%	101%	65%	2.4%	300,670	100%

注①：各省・直轄市の預金・貸出には外資金融機関扱いは含まない

注②：不良債権比率は、国有商業銀行と株式制商業銀行を対象に算出され、2004年には全国で13.2%あった。

資料：各省・直轄市および不良債権比率は『中国金融年鑑2009年』、全国は『中国金融年鑑2009』

表4 東北3省における主要銀行別貸出残高の推移

2003年 ①

単位：億元

銀行名	政策銀行	国有商業銀行				株式制商業銀行			農村信用組合	都市信用組合	その他	合計
	農発	工商	農業	中国	建設	交通	中信	光大				
東北3省	1,829	3,333	1,697	1,394	1,398	506	157	217	777	267	3,558	15,133
	12%	22%	11%	9%	9%	3%	1%	1%	5%	2%	24%	100%
全国	6,902	33,178	22,662	17,471	20,908	4,888	2,332	2,388	13,938	837	33,492	158,996
	4%	21%	14%	11%	13%	3%	1%	2%	9%	1%	21%	100%

2008年 ②

銀行名	政策銀行	国有商業銀行				株式制商業銀行			農村信用組合	都市信用組合	その他	合計
	農発	工商	農業	中国	建設	交通	中信	光大				
東北3省	2,422	2,813	904	1,653	2,256	740	235	296	2,084	105	8,419	21,927
	11%	13%	4%	8%	10%	3%	1%	1%	10%	0%	38%	100%
全国	12,193	43,878	30,809	26,628	35,830	12,547	6,645	4,689	27,449	435	118,946	320,049
	4%	14%	10%	8%	11%	4%	2%	1%	9%	0%	37%	100%

増減 ②-①

銀行名	政策銀行	国有商業銀行				株式制商業銀行			農村信用組合	都市信用組合	その他	合計
	農発	工商	農業	中国	建設	交通	中信	光大				
東北3省	593	▲ 520	▲ 793	259	858	234	78	79	1,307	▲ 162	4,861	6,794
	9%	-8%	-12%	4%	13%	3%	1%	1%	19%	-2%	72%	100%
全国	5,291	10,700	8,147	9,157	14,922	7,659	4,313	2,301	13,511	▲ 402	85,454	161,053
	3%	7%	5%	6%	9%	5%	3%	1%	8%	0%	53%	100%

注：貸出残高は人民元建貸出と外貨建貸出の合計

資料：『中国金融年鑑2004』『中国金融年鑑2009』

表5 株式制商業銀行 東北3省の支店一覧（2008年）

銀行名	瀋陽	大連	長春	ハルビン	銀行名	瀋陽	大連	長春	ハルビン
交通	○	○	○	○	広東発展	○	○		
中信	○	○		○	深圳発展		○		
光大	○	○	○	○	招商	○	○	○	○
華夏	○	○			興業	○	○		○
民生		○			上海浦東発展	○	○		○

注①：支店が所在する都市名に○を記載

注②：2010年10月現在、渤海銀行が大連支店を開設している

資料：『中国金融年鑑2009』

く、政策資金が重点的に投入されて農業振興が図られていたことがわかる。表4では国家開発銀行および輸出入銀行のデータを把握できないが、当時から東北地区の産業振興が重点政策であったことを考えると、計画経済下の国家専業銀行が果たしていた役割を政策性銀行が代替したと考えられる。「その他」の24%には開発銀行および輸出入銀行の貸出が含まれるが、株式制商業銀行の支店や、90年代終盤に設立された都市商業銀行も相応のシェアを占めていると推測される。

2008年をみると、国有商業銀行のシェアが35%と大幅に低下している。中でも工商銀行と農業銀行の落ち込みが大きく、5年間で貸出残高を工商銀行は520億元、農業銀行は793億元減少させている。計画経済下の基幹産業を支えていた両行は国有企業・農村改革の過程で不良債権の処理および不採算貸出の回収が課題となったが、域内で先に経済が発展した大連や瀋陽といった主要都市を除くと、東北3省でこの取り組みが進捗したのは2003年から2008年である。両行の落ち込みの背景にはこうした事情がある⁵。

⁵ 遠山前掲書（注1）では、チチハルを対象に同様の考察を行っている。

農業発展銀行は工商銀行に続くまで貸出残高を伸ばしているが、国家開発銀行も農業金融を支援している。2009年8月のチチハル調査で、精米加工企業がチチハル市信用保証会社の保証を得て国家開発銀行より実質長期間の借入を行っている事例を確認している。地域の信用保証会社で地域企業をガバナンスしつつ、地域外の長期資金を導入することで、銀行の信用創造が機能していない状況を克服している⁶。また、農村信用組合の貸出が伸びているが、農業銀行が農村での貸出を減少させるなかでの受け皿になっていることがわかる。「その他」をみると全国の34%を上回る38%と4割近い高いシェアとなっている。先の分析同様に政策性銀行2行によるシェア向上もあろうが、株式制商業銀行や都市商業銀行の業容拡大を反映していると考えられる。

表6は2008年末における東北3省に本店を構える都市商業銀行の一覧であるが、工業都市を本店とする銀行が多く、都市信用組合の統合が進められたことが確認できる。なお、調べられた範囲で財務データを付記したが、全国で業務展開している株式制商業銀行の当地での活動と比較して遜色のない貸出実績をあげている銀行が少なくない。東北3省全体での貸出残高の確認ができた交通銀行、中信銀行、光大銀行の貸出残高は、それぞれ740億元、235億元、294億元であるのに対し、吉林銀行640億元、大連銀行573億元、ハルビン銀行430億元、盛京銀行318億元となっている。都市商業銀行は本店を構える都市を中心に貸出を行っている

ことを考えると、3省内の主要都市における都市商業銀行は相応の地位を確保していることがわかる。

一方、都市商業銀行の中には規模の小さい銀行も含まれている。データを入手できた範囲での分析にはなるが、例えばチチハル市商銀行の貸出残高は2008年6月で32億元にすぎない⁷。これは東北3省の主要銀行と比較すると一桁小さい規模である。都市商業銀行がリレーションシップバンキングに重きを置く運営を目指しているのかどうかは定かでないが、トランザクションバンキングを志向するのであれば小規模では厳しいということかもしれない⁸。チチハル商業銀行は、近隣の牡丹江市商業銀行、大慶市商業銀行、および七台河市城市信用社と合併し、2010年2月に龍江銀行が設立されている。本店は省都ハルビンとし、旧銀行の各拠点を営業区域に定めた商業銀行として再スタートしている。

東北3省での銀行システム確立に向けて

全国との比較検証をとおして東北3省の銀行システムが発展途上であることをみてきたが、東北3省の中でも地域によって経済環境は異なるため、取り組むべき課題は地域で異なる。そこで以下では、本稿のまとめとして、都市商業銀行を取り巻く金融環境を省別に概観することで、当地の銀行システムの抱える課題を検討する。

遼寧省の金融取引は瀋陽と大連に集中している。瀋陽と大連の預金および貸出残高はほぼ拮抗しており、両市をあ

表6 東北3省に本店を構える都市商業銀行一覧 (2008年)

単位：億元

省	銀行名	総資産	預金	貸出	預貸率	説明
遼寧省 (13行)	盛京銀行 (本店: 瀋陽)	553	465	318	68%	財務データ不明は以下の6行 丹東商業銀行、盤錦商業銀行、葫蘆島商業銀行、阜新商業銀行、鉄嶺商業銀行、朝陽商業銀行
	大連銀行	1,268	1,036	573	55%	
	鞍山商業銀行	351	314	192	61%	
	撫順商業銀行	未調査	104	69	66%	
	錦州銀行	544	444	304	68%	
	營口銀行	262	229	143	62%	
	遼陽商業銀行	253	228	152	67%	
吉林省 (1行)	吉林銀行 (本店: 長春)	1,081	872	640	73%	
黒龍江省 (4行)	ハルビン銀行	845	750	430	57%	財務データ不明は、大慶商業銀行、牡丹江商業銀行の2行 (2010年にチチハル商業銀行他と合併し、ハルビンを本店とする龍江銀行を設立)
	チチハル商業銀行	68	62	32	52%	

注：銀行名から本店所在地が不明な銀行のみ所在地を記載

資料：『中国金融年鑑2009』、各銀行のホームページ、2008年度報告書

⁶ チチハルを対象にした農業金融事例研究は、遠山前掲書 (注1) を参照されたい。

⁷ チチハル市商業銀行については、遠山前掲書 (注1) を参照されたい。

⁸ リレーションシップバンキングとトランザクションバンキングについては、小野有人『新時代の中小企業金融 - 貸出手法の再構築に向けて』東洋経済新報社、2007年、を参照されたい。

わせると預金および貸出の省内シェアはともに58%と、GRPの省内シェア57%とほぼ同じ水準となっている⁹。しかし、預貸率を見ると、瀋陽57%、大連70%と異なる。大型国有企業改革にあたり不良債権処理に苦しんだ瀋陽に対して、大連は外資導入や民営化が比較的スムーズに行われた印象があるが、大連銀行は瀋陽の盛京銀行より規模が大きいとか、外国銀行の拠点が大連の方が多といったように、金融改革は大連が比較的先行していると理解できる。先にみたとおり遼寧省は東北3省内での金融先進地域であるが、その牽引役は大連といえよう。大連郊外の農村では外資銀行による小額貸出会社や村鎮銀行も設立されている¹⁰。銀行業のパートナーとなる信用保証会社も複数設立されており、また不動産担保金融や質屋といった庶民金融も活発で銀行がリスクをとれない層への金融も行われている。

また、両市以外にも都市商業銀行が多数存在するのが遼寧省の特徴で、黒龍江省は2行に、吉林省は1行に統合されたのと対照的である。遼寧省の小規模銀行が統合に向かうのか注目されるが、株式を上場させ大連等へ拠点を拡大している錦州銀行の存在は興味深い。

吉林省の金融取引は省都・長春のみに集中している。長春の省内シェアは預金48%、貸出58%とGRPシェア40%より高い¹¹。政策性銀行や株式制銀行の支店は長春のみに存在するため、長春以外の地域への貸出も長春に計上されていることもあるが、都市商業銀行が長春のみにしか存在していないように、長春以外では銀行システムが機能していないことが一極集中につながっている。

長春を除く地域の主要産業は農業もしくは軽工業であり、これらの地域では農村金融の拡大が期待されている。この取り組み事例は適宜報道されており、農村での銀行システム構築が重点課題と位置付けられている。

黒龍江省の金融取引も省都・ハルビンに集中し、預金シェア44%、貸出シェア56%はGRPシェア28%を大きく上回っている¹²。黒龍江省は、吉林省と同じ金融構造を示しており農業金融への課題を抱えるが、大慶、チチハルといった規模が劣後する工業都市が複数存在する点では、遼寧省同様に都市金融への取り組みも課題になる。前述のとおりハ

ルビン以外の4都市の金融機関が合併し龍江銀行として再発足しているが、営業地域には都市部と農村部をともに含んでいることを考えると、龍江銀行は、都市商業銀行であっても農村金融的な取り組みも求められるのかもしれない。

ハルビン銀行の最近の動向をみると、小額貸出に力を入れている点が注目される。ロシアと国境を接する黒龍江省の省都ハルビンは、年々拡大している国境貿易の中継基地としてヒト、モノが集まる大都市であり、小額資金で起業できる機会が少なくない。黒龍江省の銀行システムは全国で最も低迷しているが、既存の大企業すなわち旧国有企業だけを融資対象としても浮上にはつながらない。小額貸出で支援したスタートアップ企業の中から将来の大企業を育てることは、銀行の貸出機会の拡大につながる有効な施策と期待される。

先にみた国有商業銀行や株式制銀行による中小企業金融専門部門設立の動きは、現時点の東北3省では先進地域ほど目立っていない。それゆえ、当地の金融問題の解決に向けた対応は地域独自の処方箋が求められる。

沿海地域に比べると東北3省の経済発展は劣後している。すなわち市場経済化は遅れており、政府の役割に期待せざるをえない。政府への期待は銀行システムにもあてはまり、政策金融が貸出に占めるシェアは比較的高く、都市部では政府が出資した信用保証会社による債務保証が行われている。後者のような中小企業金融への政府部門の関与は、中小企業向けのリスク判断が難しいため沿海主要都市でも推進されているが、政策金融や信用保証の形で公的部門がリスクを「過度」に負担した形で銀行システムを構築するだけでは、市場メカニズムが作用しない銀行システムに依存することになる。

資金の有効な配分のためには市場機能の確立が不可欠である。公的部門の関与を一定の範囲にとどめたくて、銀行の資金仲介が機能することが必要である。東北3省全体でみればまだ先の課題であろうが、東北で比較的発展している大連のような都市では、公的部門の関与をどこまで「適正」とするかの議論を深める時期がきているといえよう。

⁹ 『遼寧統計年鑑2009』を参照した。

¹⁰ シティ銀行による瓦房店花期貸款公司、香港上海銀行による普兰店匯豐村鎮銀行の設立がある。大連金融網 (<http://jrb.dl.gov.cn/2008/>) を参照されたい。

¹¹ 『吉林統計年鑑2009』を参照した。

¹² 『黒龍江統計年鑑2009』『哈爾濱統計年鑑2009』を参照した。

The Current Status of and Challenges for the Banking System in the Three Provinces of the Northeast of China

TOYAMA, Koh

Associate Professor, Department of Economics, Senshu University

Summary

While China's economic development is striking, its financial systems, including the banks, are in the process of being put in order, and the progress therein differs depending on the region. Initiatives in the urban areas of the coastal regions were commenced in the latter half of the 1990s, yet in the regions where economic development began after a delay the initiatives were later than that, and in rural areas they got into full swing from 2003. As the core industries of the three provinces of the Northeast in the era of the planned economy were state-owned manufacturing industry and agriculture, they needed, differing from the coastal regions, initiatives aimed at state-owned enterprises and agricultural reform. As a result, economic development lagged behind the coastal regions, and looking at the finance-related indicators also, there was a situation where they were following in the wake of the coastal regions. Consequently, today's banking system of the three provinces of the Northeast is being formed, having its own peculiar characteristics even for within China.

The Industrial and Commercial Bank of China and the Agricultural Bank of China, the core banks of the three provinces of the Northeast under the planned economy, have been reducing their outstanding lending through being burdened with the disposal of non-performing loans, and this has been compensated for by policy banks [banks making low-interest loans for state projects], urban commercial banks, and rural credit cooperatives. It is difficult for private banks to take on the risk for the breaking away from the planned economy, and finance in recent years has had to depend on policy banks. The urban commercial banks have been shouldering the regional financing which is difficult for the state-owned commercial banks and joint-stock commercial banks developing nationwide to handle, and the evolution of business and its realignment in response to the economic conditions of each region has been progressing. It is hoped that the rural credit cooperatives will form the core for the building of the rural finance system which the China Banking Regulatory Commission points out. Within the three provinces Dalian has become relatively well-developed.

For the effective allocation of funds the establishment of market functions is essential. While it is probably difficult to immediately lower the dependence on government departments over the entire area of the three provinces of the Northeast, the time is coming for deepening the discussion as to how far would be "appropriate" for the involvement of government departments in the cities which are, like Dalian, relatively well-developed.

[Translated by ERINA]